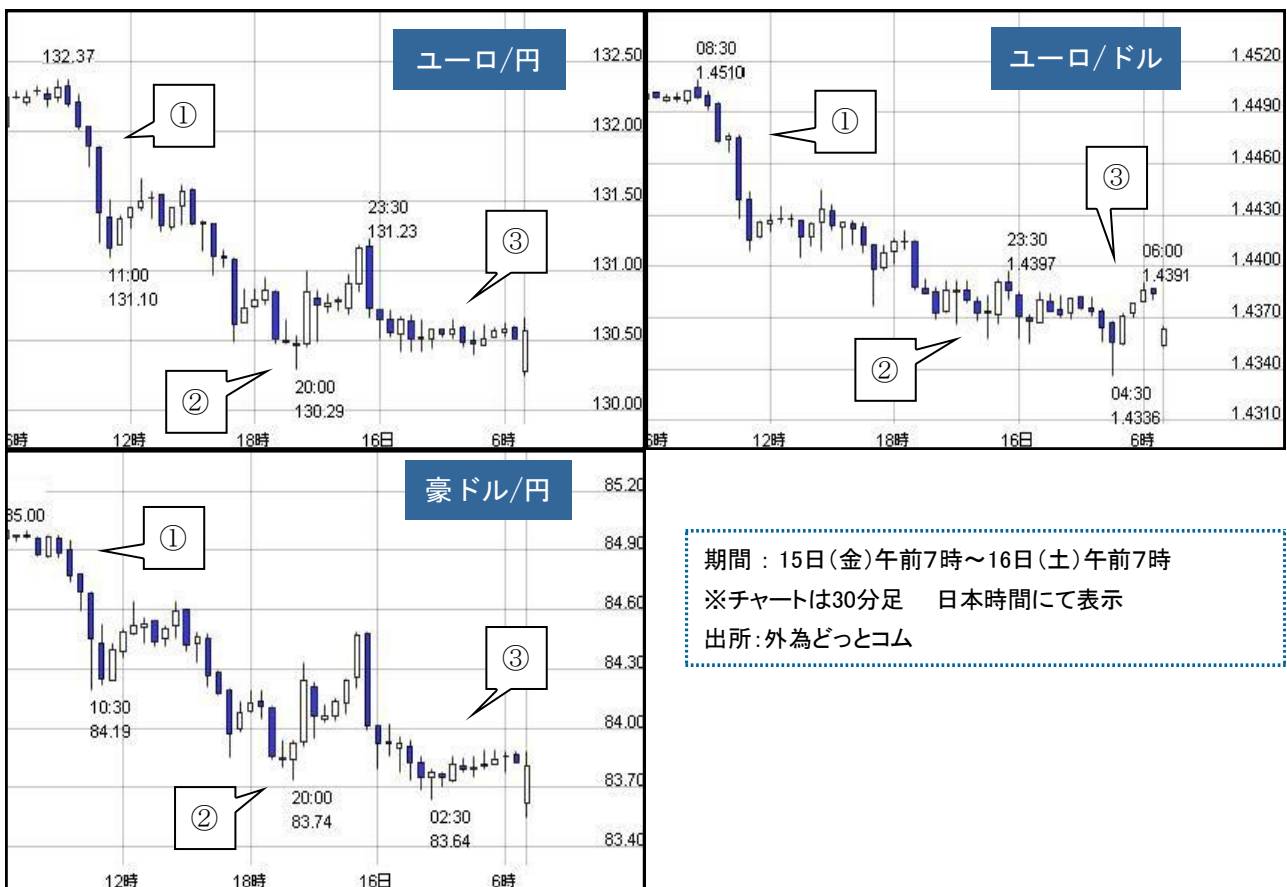


1月18日(月曜日)
ユーロ/円
ユーロ/ドル
豪ドル/円

日本の政局も「リスク」要因に？

15日(金)の主な推移



①

ギリシャの財務問題への懸念がくすぶるなか、ドイツのメルケル首相辞任の噂などもあり、仕掛け的なユーロ売りが優勢となると、ユーロ/ドルは損失確定の売りも巻き込み、下落幅を拡大した。また、ユーロは円に対しても下落し、この動きにつれて豪ドル/円も下落した。

②

欧州勢参入後も、アジア時間の流れが引き継がれ、週末のポジション調整も手伝ってユーロや豪ドルを売って、ドルや円を買う動きが先行し、ユーロ/ドル、ユーロ/円、豪ドル/円のいずれもアジア時間の安値を更新して下落した。

③

NY株式市場で3連休を前に利益確定の売りが強まると、為替市場でもリスク回避の動きが強まったことで、ユーロや豪ドルはドルや円に対して、安値圏での推移となった。

ユーロ/ドル、ユーロ/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから、円売り、高金利通貨買いの流れ(ユーロ/円上昇要因)
- ・主要新興国(BRICs)を中心にドル離れに動くとの観測(ユーロ上昇要因)
- ・米低金利政策長期化観測に伴う米長期金利の低下(ユーロ/ドル上昇要因)
- ・米景気回復に伴う米長期金利の上昇(ユーロ/ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円の買い戻しの流れ(ユーロ/円下落要因)

豪ドル/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから高金利通貨買いの流れ(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪利上げ観測に伴う日豪金利差の拡大(豪ドル/円上昇要因)
- ・株価、資源価格の上昇(豪ドル/円上昇要因)
- ・日銀による追加金融緩和観測(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪州中銀による利上げ観測の後退(豪ドル下落要因)
- ・株価、資源価格の下落(豪ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円の買い戻しの流れ(豪ドル下落要因)

本日の見通し

本日の予想レンジ

ユーロ/ドル: 1.4280-1.4480ドル
ユーロ/円 : 129.70-132.20

本日の予想レンジ

豪ドル/円: 82.80-84.80円

17日付けの英テレグラフ紙が、「ECBは、ギリシャがユーロを離脱しようとした場合の法的な影響を分析する」と伝えたことから、本日早朝の取引でユーロはドルや円に対して急落する場面があった。その後はやや値を戻しているものの、日本では、民主党の「政治とカネ」の問題から政局運営が波乱含みとなっていることもあり、これを嫌気して日本株が下落するようだと、ユーロ/円の上値は重くなりそうだ。また、欧州市場では、英テレグラフ紙の報道が蒸し返される可能性もあり、ユーロ/ドルについても弱含みの推移が予想される。

先週末のNY株式市場の下落や日本の政局混乱への不安などから、日経平均株価の軟調推移が予想されるため、豪ドル/円相場ではリスク回避の売りが先行しやすい地合いとなりそうだ。とはいえ、豪中銀による2月の利上げ観測もあり、下値では底堅さも見られそうで、20日移動平均線のある83.15円付近、心理的節目となる83円あたりが下値の目途となりそうだ。NY市場が休場となるため、夜間は動意に乏しい展開が予想される。

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 日本時間での表示

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
1/18(月)	—	—	米国休場(キング牧師誕生日)	—	—
	—	—	特になし	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com